

花火



夏

を

楽

し

く



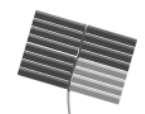






虫

夏に見る花火は今も昔も変わらず季節を彩る代名詞です。近年は家庭でも楽しめるようになりましたが、周辺住民の迷惑にならないよう、家庭や個人で行う際は、きちんとルールを守り楽しく遊びましょう。

- ▼ 花火をするときは水の入ったバケツ・ごみ袋・ろうそく・蚊取り線香・懐中電灯を用意する
- ▼ 子どもは大人と一緒に遊ぶ
- ▼ 風の強い日は遊ばない



<p>火火が出る花火</p> 	<p>マッチやライターでの点火は危険です。缶など台になるものにローソクを立て、その火でつけましょう。</p>
<p>回転する花火</p> 	<p>糸を手で持たず、少なくとも1.5m以上の長い棒の先に吊るしましょう。点火するときは地上に置いて線香の火で点火し、火が付いてから棒を持ち上げると点火しやすく安全です。</p>
<p>爆発音が出る花火</p> 	<p>手に持たず、地面に置いて導火線の先に線香で火を付けます。火を付けたらすばやく遠くへ離れましょう。</p>
<p>打ち上げ花火</p> 	<p>絶対に手に持って遊ばないでください。特に長い筒のものは、土や石でしっかり固定し、決して筒先に顔や体を出さないでください。</p>
<p>飛ぶ花火</p> 	<p>長い尾付きのものは、細口のビンなどに立て、必ず方向を真上に向けてください。導火線の先に線香で火をつけて、すばやく5m以上離れましょう。</p>
<p>煙が出る花火</p> 	<p>導火線付きのものは、導火線の先に線香の火で点火します。燃えている時間が長いので、枯草や燃えやすい物の中に投げこまないようにしてください。</p>
<p>走る花火</p> 	<p>ねずみ花火は、どちらの方向へ走るか分かりません。燃えやすい物のある場所では遊ばないでください。</p>

種類	刺された時の対処法
蚊	市販のかゆみ止めの軟膏を塗り、はれがひどい場合は、絞ったタオルや氷で患部を冷やしてください。
ブヨ	市販のかゆみ止めの軟膏を塗り、熱を持っているときには、冷やすとかゆみや痛みが和らぐことがあります。かゆみがひどい場合は、皮膚科を受診しましょう。
ハチ	針が刺さっていたら、毛抜きやガムテープなどに付着させて抜き、傷口から毒を絞り出してください。(口で毒を吸わないでください) ハチの毒は水に弱いので、石けんで良く洗い、流水で良く洗って冷やしましょう。スズメバチなどの大きなハチに刺された場合はすぐに病院を受診をしてください。
毛虫	触ってしまい発疹がでたら、流水で洗い流しましょう。毒気が皮ふに入り込むことがあるので、こすらないでください。患部に毛が残っている場合には、テープで取り除きましょう。はれがひかない場合は患部を冷やして皮膚科を受診してください。

夏になると外に出る機会が増えますが、虫にさされることも多くなるのではないのでしょうか。夏を快適に過ごすため、虫さされの予防策や、刺されてしまった場合の対処の仕方を覚えておきましょう。

▼ 発生源をなくす
家の周りに置いてある、使っていないプランターなどに雨水が溜まったままだと、そこから蚊が発生するので、捨てましょう。

▼ 虫よけのポイント
蚊やブヨは素肌を刺すので、野山に行く際は長袖や長ズボンを着

用するなど、素肌を出さないようにしましょう。また、屋外では虫よけをしましょう。素肌につけるスプレーやシートタイプの虫よけ、携帯できる蚊取線香などがあります。

▼ かゆくてもさわらない
かゆみを我慢するのは大人でも大変です。特に子どもはひっかいた場所に細菌が繁殖して化膿し、それがほかの皮ふに移る「とびひ」になることがあります。予防のためにも、夏の間はこまめに爪を短く切っておきましょう。